

令和7年度第1回蕨市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和7年10月24日（金） 午後3時～午後4時30分

2. 会 場 市庁舎5階 委員会室

3. 出席者（敬称略）

市 長：頼高 英雄

教育長：松本 隆男

委 員：萩原 敏行、尾方 香里、石山 大介、中村 美音

事務局：【市長部局】佐藤 慎也（理事）、阿部 泰洋（総務部長）、佐藤 則之（総務部次長政策課長事務取扱）、松永 祐希（商工観光課長）、菊地 雅治（政策課係長）、檜山 裕太（秘書広報課広報広聴係長）、藤田 瞳子（政策課主事）
【教育部局】加納 克彦（教育部長）、吉岡 雅彦（教育部次長学校教育課長事務取扱）、桑島 勝彦（生涯学習スポーツ課長）、白鳥 幸男（教育総務課長）、
咲間 悟（学校教育課主幹学校保健係長事務取扱）、駒崎 崇也（教育総務課庶務係長）、峠館 春介（学校教育課指導係長）

4. 内 容

1 開会

【阿部総務部長】

ただいまから、令和7年度第1回蕨市総合教育会議を開会いたします。

2 あいさつ

【阿部総務部長】

はじめに、頼高市長からご挨拶をお願いいたします。

【頼高市長】

皆さんこんにちは。蕨市長の頼高英雄です。本日は、お忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。また、委員の皆様には、日頃から本市の教育行政の推進に大変ご尽力をいただき、改めてお礼を申し上げます。

秋は、小学校の運動会や町会のお祭りなどのイベントで多くの子どもたちの

元気な姿を目にすることができ、嬉しく思います。また、子ども神輿が地域を巡る中で、高齢者の方々からお菓子をもらったりして、世代間交流の場となっているのを見て、このような経験は、子どもたちにとって、ふるさとを感じる素晴らしい経験になっていると感じました。

また、先日開催された「中学生の主張 in わらび」では、それぞれが自分の経験に基づきながら、大切なことを問い合わせ、自分の考えをしっかりと述べており、大変素晴らしいと感じました。開催にあたってご尽力された学校関係者の皆様には、改めて感謝を申し上げたいと思います。

さて、私から教育環境整備について何点かお話しさせていただきます。

まず、公立小・中学校の体育館へのエアコン設置につきましては、昨年度をもって小・中10校全てに設置が完了しました。全国の設置率が約23%という中で、蕨市では、いち早く設置することができました。

次に、全国的に課題となっている不登校の問題につきましては、これまで様々な対策を講じてまいりましたが、今年度より、全ての中学校に校内教育支援センター「e-station」、通称「エスタ」を整備いたしました。各中学校の「エスタ」には、それぞれ、教員免許を持つ「エスタ教員」1名とサポートスタッフである「エスタ支援員」1名を配置しています。「エスタ」は、登校する生徒の学習支援を行うだけでなく、登校ができない生徒に対しても、担当教員と連携しながら支援を行うなど、不登校の生徒一人一人に応じた支援を保障し、生徒が学力やコミュニケーション能力を身に付けることで、社会的自立を目指していくことを目的としています。

次に、学校トイレの整備につきましては、令和9年度までに全ての学校トイレのリニューアルを完了することとし、取組を進めてきました。トイレの整備には、様々な方法がありますが、蕨市では、子どもたちにより満足してもらうため、単に洋式化を進めるだけでなく、床の乾式化や天井の改修を含む内装の全面的なリニューアルを実施しています。今年度は、東小学校、南小学校、中央小学校の3校で工事を行っており、今後は、西小学校、北小学校、中央東小学校、塚越小学校の4校について、設計委託を行い、令和8年度に改修工事を予定しています。また、中学校3校についても令和9年度に改修を行っていく予定です。学校トイレの整備は、非常に大規模な事業ですが、子どもたちの期待も大きいので、未来を担う子どもたちの教育環境の充実に向けて、引き続き取組を進めてまいります。

さて、本日の議題は、「ICTの効果的な活用について」です。これまで進めてきたICT教育環境整備の取組が、実際の学校現場でどのように活用されているのかということについてご報告があると思います。今年度は、令和2年度に整備したGIGAスクール端末の一斉更新に加え、東中学校へのDXルーム

の整備を進めています。これまでの会議でも議論がありましたが、ＩＣＴは目的ではなく、手段であり、重要なことは、その手段をいかに効果的に活用するかということです。私たちの生活の中でも、便利な道具に頼りすぎることで、本来できていたことができなくなるという問題があると思います。子どもたちには、自分の頭で考えることや、現実的な体験を大切にすることを忘れずに、ＩＣＴを効果的に活用してほしいと考えています。

本日は委員の皆様に様々な形でご意見をいただきて、これからより良い教育行政につなげる、有意義な総合教育会議にしていきたいと考えております。

皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

3 議題

【阿部総務部長】

ありがとうございました。それでは、要領第3条の規定に基づきまして、会議の議長を賴高市長にお願いさせていただきます。

市長、よろしくお願ひいたします。

【賴高市長】

はじめに、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、総合教育会議は公開することとなっていますが、本日の会議に傍聴の希望者はいらっしゃいますか。

【阿部総務部長】

本日は、傍聴希望者はおりません。

(1) ＩＣＴの効果的な活用について

【賴高市長】

それでは、会議次第に基づきまして、会議を進行いたします。議題(1)の「ＩＣＴの効果的な活用について」です。事務局から説明をお願いします。

【吉岡教育部次長】

それでは、学校教育課からＩＣＴの効果的な活用についてご説明させていただきます。

総合教育会議でＩＣＴを議題にするのは、令和2年度、令和3年度に続いて今回が3回目です。令和2年度には、コロナ禍で進めたGIGAスクール構想

に基づく取組について説明しました。令和3年度には、導入した電子機器の一斉接続や今後の活用方法について説明しました。

それから5年が経過した今回は、実際の学校現場でのICTの活用状況を児童生徒の視点と教職員の視点の両方からご説明させていただくとともに、内容を大きく5点に分けてお話しさせていただきます。

1点目は、「授業におけるICT活用」で、各教室でICTがどのように活用されているかについて、ご説明します。2点目は、「ICTを活用した業務改善の実際」で、ICTがどのように業務の効率化に貢献しているかについて、ご説明します。3点目は、「ICTスキル向上研修」で、教職員のICTスキルを向上させるための取組について、ご説明します。4点目は、「端末更新スケジュール」で、ICT環境の最新化計画について、ご説明します。5点目は、これまでの取組の「成果と課題」を踏まえた上で、今後の改善点について、ご説明します。

1. 授業におけるICT活用

まずは、児童生徒視点でのICTの活用状況について、ご説明します。

授業におけるICT活用のポイントの1つ目は、「協働的・対話的な学びの促進」です。児童生徒は、個別に学習するのではなく、共に考え、意見を共有しながら学習する手段としてICTを活用しています。従来は、紙を回して意見を共有していましたが、ICTを活用することで、同時に意見を共有し、共同編集することが可能になり、時間をかけずに学びを深められるようになりました。また、思考が可視化されることで対話が活性化し、より深い学びが促進されるようになりました。加えて、動画や画像などを簡単に利用できることで、自己表現の手段が増え、意見交換がしやすくなり、コミュニケーション能力の向上が図られています。さらに、市内全ての中学校に整備されているDXルームは、機器を活用した対話や様々な学習形態を実現し、より豊かな学びの場を提供することができています。このように、ICTの活用によって、授業が教員から児童生徒への一方的なものではなく、児童生徒同士の双方向的なやりとりが充実したものになっています。

授業におけるICT活用のポイントの2つ目は、「個別最適な学びの推進」です。教育現場の多様化に伴い、児童生徒一人一人に合った学習を提供するために、様々なICTを活用しています。まず、デジタルドリルの活用です。デジタルドリルを活用することで、児童生徒の習熟度に応じた学習が可能になります。また、デジタルドリルは、紙のドリルとは異なり、反復学習ができるため、

各自の理解度に合った問題を選びながら学習を進めることができます。次に、デジタル教科書やQRコードの活用です。現在、紙の教科書には、QRコードが付いており、これを読み取ることで関連資料や補助教材にアクセスできます。この取組により、動画や補助教材へスムーズにアクセスでき、学習内容をより深く理解することが可能となりました。最後に、デイジー教科書です。デイジー教科書は、音声読み上げや文字の大きさ・色の変更が可能な教科書で、識字障害や日本語指導が必要な児童生徒への支援に活用しています。また、デイジー教科書を教室の大型モニターに投影することで、児童生徒の多様な学習ニーズに対応しています。

授業におけるICT活用のポイントの3つ目は、「DXルームの活用」です。DXルームは、市内の全中学校に整備されていますが、学校ごとに異なるタイプの部屋が用意されており、各中学校と教育委員会が連携し、それぞれの学校にふさわしい内容となるよう話し合いながら整備しました。DXルームには、グループ活動に適した大型モニターや、オンライン配信が可能な個別ブースなどの設備が整っており、DXルームを活用することで、ICTを活用した対話や多様な学習形態を実現できています。

学校では、ICTの活用とあわせて、児童生徒にメディアリテラシーを身に付けさせるための取組も行っています。例えば、埼玉県警などの外部指導者による指導やNetモラル教材を使用して、適切なメディアの使い方の重要性について学習しています。また、文科省や埼玉県警が提供する動画を活用し、具体的な事例を通じてネット上の正しい行動を指導しています。さらに、蕨市独自に作成したICTスキルの体系表「わらびモデル」や、健やかメディアの取組、学習用端末のSNSの利用制限などを通じて、安全なオンライン環境を整備しています。これらの取組は、デジタル時代における児童生徒のメディアリテラシーの向上に大きく貢献していると考えています。

2. ICTを活用した業務改善の実際

次に、教職員視点でのICTの活用状況として、ICTを活用した業務改善について、5点ご説明します。

1点目は、「校務支援システム」です。蕨市では、全ての教職員が、「C4th（シーフォース）」という校務支援システムを用いて、在籍管理、成績処理、保健室記録、出欠管理などの業務を一括で行っています。このシステムの導入により、教員の負担が大幅に軽減されています。

2点目は、中学校で試験的に導入している「デジタル採点」です。「デジタル採点」の導入により、採点時間の削減や採点ミスの減少につながるとともに、教員は生徒への指導により多くの時間を割くことが可能となっています。

3点目は、保護者連絡です。教職員は、ICTサービス「コドモン」を利用して、保護者から学校への遅刻や欠席の連絡や、市や学校から保護者への通知の発出を行っています。これにより、電話や印刷の手間が省かれ、教員の負担軽減につながっています。

4点目は、タブレット端末による情報共有です。教職員は、タブレットを使って、即時の職員連絡や、学習情報、スケジュールの共有、アンケートの作成・集計などを行っています。これにより、全教職員間での情報共有が円滑に行えています。

5点目は、AIの活用です。AIを活用して、会議資料のたたき台を作成することで、効率的な資料作成が可能になり、教員の負担軽減につながっているとともに、教材作成等の時間を確保できています。

ここまでICTの活用による主な取組について説明しましたが、ICTの活用は、教員の負担軽減に様々な効果をもたらしています。例えば、教職員の在校時間の短縮です。コロナ禍にあった令和4年6月と今年度の在校時間を比較すると、小学校では2時間から1時間27分に、中学校では2時間4分から1時間38分に短縮され、いずれも約30分の短縮がなされています。また、Googleドライブなどのクラウドサービスの活用により、ペーパーレス化が進み、印刷コストや印刷時間の削減と情報共有の迅速化を実現できています。加えて、Google Geminiを利用した資料作成やアイデア出しにより、教材準備にかかる時間を短縮でき、業務の質を向上させることができます。このように、ICTを活用することで教員の事務的負担が軽減され、その結果、児童生徒との対話や授業準備に多くの時間を割くことができるようになっています。

3. ICTスキル向上研修

次に、教職員のICT活用能力を向上させるための取組について、ご説明します。

まず、ICT支援員によるサポートについてです。蕨市では、今年度からICT支援員を1名増員し、合計2名体制で運営しています。ICT支援員は、授業や校務における技術的なサポートを提供し、教職員が直面する個別の技術的課題に対応しながら、効果的なICT活用方法を提案しています。新たに1

名増員されたことで、学校への訪問回数も増え、よりきめ細やかなサポートを受けることができています。

次に、ワーキンググループの活動についてです。ワーキンググループは、各学校から1名ずつ推薦された教員で構成されており、定期的に研修会を開催しています。研修会では、市のICT活用に関する課題について話し合ったり、各学校の実践例を共有したり、新たな活用方法の開発・普及などに取り組んでいます。

最後に、オンライン研修の充実についてです。富士電機ITソリューションのスクールアシスタントやICT支援員、ワーキンググループ担当教員による場所を選ばずに、短時間で受講できるオンライン勉強会を実施しているほか、学校のニーズに応じて、支援員が校内に出向いて校内研修を行うなどの取組を行っています。これにより、教員は、実践的なスキルを向上させ、自分の学校の実情に合わせたサポートが受けられるようになっています。

4. 端末更新スケジュール

次に、令和2年度に1人1台整備したGIGAスクール端末の一斉更新について、ご説明します。

今年度、蕨市は、埼玉県の共同調達に参加し、GIGAスクール端末の一斉更新を行っています。5月に埼玉県での入札により業者が決定し、市議会での議決を経て、6月に本契約が行われました。その後、10月15日から29日の期間で、全ての学校に新しい端末が納品され、順次活用を始めています。また、令和8年度には、令和2年度に購入した古い端末の廃棄を予定しています。

5. 成果と課題

最後に、ICT導入の成果と課題についてご説明します。

まず、成果として、毎日端末を活用している学級の割合が、令和4年度には約40%でしたが、令和6年度には約60%に増加しました。これにより、日常的な端末の活用が定着してきたことが明らかとなっています。また、教員による一斉指導だけでなく、授業でICTを積極的に活用することで、多様な形態で授業を行うことができており、協働的・対話的な学びが推進されています。さらに、先ほどお話ししたとおり、教員の在校時間が削減されており、ICTの活用が教員の負担軽減に大きく貢献していることがわかります。

一方で、課題として、学校間や教員間でICTの活用に差があることが挙げられます。教員間でICTの活用に差が生じてしまうのは、ICTが効果的に活用できる教科とそうでない教科の違いも影響しているものと思われます。また、「教育DX化の推進」という意味ではまだ課題があると考えており、これま

で整備したデジタル技術を、今後どのように効果的に学校教育に取り入れ、活用していくかについても引き続き検討する必要があると考えています。さらに、ICTを活用した教員と児童生徒間の交流の機会は多い一方で、児童生徒同士の相互交流が不足しているという課題があります。そのため、今後はICTを資料の提示に利用するだけでなく、意見交換のためのツールとしても効果的に活用できるよう考えていきたいと思います。

これらの課題を解決するためには、教員の力量だけではなく、どのようにICTを効果的に活用していくのかといったソフト面の整備も必要になると考えています。今後も、本市におけるICTの効果的な活用が、さらに充実していくよう取組を進めてまいります。

「ICTの効果的な活用について」の説明は以上です。

【賴高市長】

学校教育課より「ICTの効果的な活用について」についてご説明させていただきました。ただいまの説明について、皆さんよりご意見、ご質問がありましたらお願いします。

【萩原委員】

資料について、質問です。

まず、成果の部分に「教員の在校時間が削減された」とありますが、ここで言う在校時間は、時間外の時間を指しているのでしょうか。

また、課題の部分で「教員と児童生徒がやり取りする場面」に関するグラフがありますが、グラフの凡例について、詳しく教えてください。

【吉岡教育部次長】

教員の在校時間については、その通りです。

次に、グラフの凡例についてですが、「毎時間」とは、1日の全ての授業時間内で教員と児童生徒がやり取りを行ったということを示しています。また、「3～4回」というのは、1週間に3～4回教員と児童生徒がやり取りを行ったということを示しています。

【石山委員】

成果の部分に、「全国学力・学習状況調査質問紙」の調査結果が示されていますが、蕨市では独自にICTの活用状況に関する調査等を実施していますか。

【吉岡教育部次長】

蕨市独自の調査は、実施していません。

【尾方委員】

ICTの導入による成果として、教員の在校時間の減少が挙げられていますが、他に例えば、児童生徒の学習理解度や授業への関心の向上、ICTスキルの向上といった成果はありますか。

【吉岡教育部次長】

具体的な数値で示すことはできませんが、私が実際に現場で児童生徒の様子を見て、感じたことをお話しさせていただきます。まず、ICTの導入によって学習の理解度や授業への関心が向上したかどうかについてですが、理科の授業では、写真を撮影し、友達と共有しながらスケッチを効率的に行う姿が見られました。また、体育の授業では、児童生徒が自発的にタブレットでお互いの動きを撮影し、アドバイスをし合う様子も見られました。ICTスキルの向上に関しては、ひらがなやローマ字が分からぬ低学年の子でも、キーボードを問題なく使いこなしていることから、ICTスキルが向上していると考えています。

【石山委員】

ICT支援員によるサポートについて、詳細を教えてください。

【吉岡教育部次長】

蕨市では、今年度からICT支援員を1名増員し、合計2名体制で運営しています。以前は1名で、午前中と午後にそれぞれ1校ずつ、週に10校を訪問していましたが、2名体制になったことで訪問回数が倍増しました。ICT支援員は、基本的には、あらかじめ決められたスケジュールに沿って支援を行っていますが、研究授業や発表会などで特別なサポートが必要な場合には、学校間でスケジュールを調整し、臨機応変に対応しています。ICT支援員は、教職員が分からぬことをただ教えるだけでなく、自ら積極的に声をかけてサポートしてくれるほか、教室を巡回し、授業の様子を見ながら適宜必要な支援を行ってくれるなど、非常にきめ細やかな対応をしています。

【萩原委員】

先ほど、児童生徒が理科の授業でタブレットを使って写真を撮影し、それを基にスケッチを行っているというお話をありました。私は、実際の対象物を観

察してスケッチすることと、撮影した写真を基にスケッチすることでは、学習の効果に違いが生じるのではないかと考えています。

蕨市では、教職員ICT活用指導力向上を目的としたワーキンググループを実施していると思いますが、これまでにワーキンググループの中で、ICTを活用した学習とそうでない学習の習熟度の違いについて比較研究したことはありますか。

【吉岡教育部次長】

これまでに、ワーキンググループ内で比較研究を行ったことはございませんが、ご指摘いただいた点は重要な課題と認識しています。学習過程においては、2つの動作を同時にを行うことで学んだことが浸透しやすい傾向があるため、ただ写真を撮影するだけでなく、それを基にスケッチをするなどの工夫をしながらICTを活用する必要があると考えています。

【萩原委員】

ICTは、使うことそのものが目的ではないので、児童生徒には、実際に手を使って作業することも大切にしてほしいと思います。その上で、ICTを効果的に活用できるようになると良いと考えます。

他の地域では、国語の音読でICTを活用している学校もあります。私は、担当教員の声で音読することが児童生徒にとって最も良い方法だと考えていますが、蕨市の考えはいかがでしょうか。

【吉岡教育部次長】

最近のICTは、実際の人間に近い自然な音声でスムーズに読み上げるので、授業で活用すれば、担当教員が空いた時間を机間指導に充てることができます。一方で、担当教員自身の声で音読することにも良さがあると思います。音読は、文章の内容を正しく理解していることが前提となるので、担当教員が音読を行うことで、内容理解が深まり、教員自身の資質向上にもつながります。また、担当教員が直接読み上げる体験は、児童生徒に良い印象を与えることができます。したがって、最も良い方法は、ICTを利用した音読と担当教員による音読をうまく使い分けることだと考えています。

【賴高市長】

音楽の授業では、ICTを活用していますか。

【吉岡教育部次長】

作曲をしたり、お互いの演奏を録画・録音して聴き合う際に活用しています。

【賴高市長】

蕨市市民音楽祭の一環として実施している「子ども作曲ワーク」では、蕨市PR大使であり左手のピアニストとして活躍する智内威雄さんと、作曲家の朴守賢さんに指導を受けながら、子どもたちが作曲に挑戦しています。私も子どもたちが作曲した楽曲を聴かせていただきましたが、どれも素晴らしいものでした。子どもたちは、学校で作曲の経験を積んでいることが基になっているのですね。

【吉岡教育部次長】

そうですね。小学校の学習指導要領に作曲が含まれているため、ほとんどの子どもたちが、学校で基本的な作曲を経験しています。

【中村委員】

以前、子どもが放課後に学校のタブレットを使って長時間タイピングゲームを行っているところを見たことがあります。学校のタブレットに入っているゲームは、時間無制限で遊べるのでしょうか。

【吉岡教育部次長】

学校のタブレットにはタイピングゲームやクイズなどがあり、授業中に使用することもあります。そのため、現在は使用に関して時間制限を設けていません。

【賴高市長】

学校のタブレットを使用すること自体は問題ありませんが、家庭で長時間使用することは「健やかメディア」の観点からみると、課題があると思います。

【尾方委員】

教員によるAIの活用について説明がありましたが、今後は子どもたちも生成AIを利用することが想定されます。蕨市では、この状況にどのように対応する予定ですか。

【吉岡教育部次長】

現在、多くの生成AIツールには、利用規約に基づく年齢制限があり、保護者の許諾が無ければ利用できない場合もあります。蕨市で生成AIを導入する際には、国が定めたガイドラインに従い、慎重に検討を行うとともに、生成AIの使用による課題についても、調査・研究を行うことが必要だと考えています。

【尾方委員】

子どもたちは、調べ学習の際にインターネットを使って情報収集することが多いと思います。そのため、子どもたちには、自分が得た情報が正しいかどうかを判断する力を身につけてほしいと思います。

【吉岡教育部次長】

教職員は、子どもたちに調べ学習の際に引用する情報の出典を明記するよう指導していますが、あわせて、自分たちが集めた情報の出所や、その正確性を見極めることは非常に重要だと考えています。今後も、子どもたちが情報を正しく判断できる力を身につけられるよう、引き続き指導してまいります。

【萩原委員】

大学で学生の作成したレポートを確認すると、情報の出典先を正しく明記できていない学生が多く見受けられます。小・中学校で適切な指導が行われていると考えていましたが、必ずしもそうではない場合があるようです。そのため、教員向けにレポートの正しい書き方について研修を実施し、子どもたちに対して正確な指導ができるようにすることが望ましいと考えます。

また、子どもたちは、作文を書く際、自己主張の理由付けや因果関係を示すのが苦手な傾向があります。そして、教員がその理由付けや因果関係の妥当性を判断するのは難しいと思います。そこで、作文指導にAIを取り入れ、完成した作文の評価だけでなく、作文作成の過程においても生成AIを活用することが効果的だと考えます。

【賴高市長】

委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。

ICT導入の成果として、教職員の在校時間が短縮されたり、子どもたちのICTスキルが向上していることが分かりました。今後は、ICT導入が子どもたちの能力向上にどのように寄与しているかについて、より具体的な分析を進めていく必要だと思います。例えば、ICTの導入により、学習につ

まずいていた子どもへのサポートが可能になったとか、学習の習熟度が向上したとか、ICTがどのように子どもたちの学びにプラスに影響しているかを示せるよう、今後も調査・研究に取り組んでもらいたいと思います。

また、近年、子どもたちは、学校外でも頻繁にインターネットを利用してお り、ICT環境に慣れ親しんでいると考えられます。そのため、今後学校には 子どもたちが自分では身につけることが難しいICTの応用的な使い方や、将 来に役立つ知識を学ぶ機会の提供など、学校でしか体験できないことを求め られるかもしれません。現在は、ICT導入の過渡期にありますので、今後さま ざまな取組を通じて、検討を進めてほしいと考えています。

その他いただいたご意見について、教育長から何かございますか。

【松本教育長】

委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。いただいたご意見は、 今後の教育行政に活かしてまいります。

さて、ICTの導入により、授業で写真や動画を撮影し、友達と意見交換を行 う取組が行われていることは素晴らしいことだと思います。

一方で、子どもたちには、情報を正しく判断する力を身につけてほしいと考 えています。そのためには、インターネットだけでなく、本や新聞など、様々 な媒体に触れる機会を大切にしてほしいです。

（2）その他

【賴高市長】

では、次に議題の（2）その他について、事務局から何かございますか。

【佐藤総務部次長】

3点ほどご報告したいと思います。まず1点目は、「令和7年度 児童生徒の 活躍について」ご報告いたします。

【吉岡教育部次長】

その他資料1の資料1枚目をご覧ください。学校総合体育大会関東大会にお いて、第一中学校の水泳部が「男子400m自由形」「男子4×100mフリ ーリレー」「女子200m平泳ぎ」で関東大会に出場し、「男子4×100mフリ ーリレー」が第7位という結果となりました。また、第二中学校の柔道部の3 年生の生徒が「女子個人戦70kg超級」で県大会2位となり、関東大会に出 場しています。なお、関東大会に出場した生徒は、過日、表敬訪問を行ってい ます。その他の結果については、資料をご覧ください。

次に、資料2枚目をご覧ください。先日行われた蕨・戸田の二市駅伝競走大会において、第一中学校の男子と第二中学校の女子が好成績を収め、県大会への出場権を獲得しました。また、文化系部活動に関しては、第一中学校の音楽部が埼玉県合唱コンクールで金賞、関東大会で銅賞を受賞しました。なお、第一中学校の音楽部についても、過日、表敬訪問を行っています。さらに、第二中学校と東中学校の吹奏楽部が、吹奏楽コンクール中学校南部地区大会に出場し、金賞を受賞しています。以上です。

【賴高市長】

それでは、ただいまの説明について、何かご質問・ご意見等ございますか。

第一中学校の音楽部については、部員数が少ないことを懸念していましたが、今年度は、新入部員が10人も加わったと聞き、嬉しく思っています。今後の更なる活躍を期待しています。

そのほか、事務局からは何かございますか。

【佐藤総務部次長】

続いて、2点目、「蕨市公式LINEについて」ご報告いたします。

【檜山秘書広報課広報広聴係長】

その他資料2をご覧ください。蕨市では、10月1日から蕨市公式LINEの運用を開始しました。蕨市では、これまでにもホームページ、広報、ケーブルテレビ、X（旧Twitter）などの様々な媒体を通じて市の情報を発信していましたが、今回の蕨市公式LINEでは、利用者が事前に知りたいメッセージのカテゴリーを登録することで、それぞれのニーズに合わせた情報を届けることができます。また、LINEのトーク画面の下部には「暮らしに便利なメニュー」を設置し、市民の皆様が頻繁に利用するホームページの情報に直接アクセスできるようになっています。LINEは、多くの人に利用されているSNSであるため、幅広い世代に市の情報を届けられるとともに、災害時には被害状況や避難所開設情報などを迅速に伝えることができるため、多くの市民の方に登録していただきたいと考えています。そこで、「友だち登録キャンペーン」として、12月31日までに友だち登録をしていただいた蕨市民の皆さん1万人を対象に、500円のデジタルギフトをプレゼントする取組を実施しています。教育委員の皆様におかれましても、ぜひご登録をお願いいたします。以上です。

【賴高市長】

それでは、ただいまの説明について、何かご質問・ご意見等ございますか。そのほか、事務局からは何かございますか。

【佐藤総務部次長】

続いて、3点目、「中山道にぎわい交流拠点について」ご報告いたします。

【松永商工観光課長】

その他資料3をご覧ください。本整備事業は、市役所仮設庁舎跡地の利活用として、官民連携による中山道エリアのにぎわいの創出と、まちの回遊性につなげることを目的に民間機能施設と公共機能施設を整備するものです。

まず、民間機能施設については、設計から施工、運営費用、賃料について負担できる飲食施設を公募したところ、カフェ業界でもトップクラスの人気を誇り、年間来客数11万8千人を見込むなど、集客力の高さにも定評があるコメダ珈琲からの出店希望があり、選定にいたりました。イメージ図のとおり、中山道の落ち着いた街並みに溶け込む蕨オリジナルデザインの店舗とする予定で、今月上旬に建設工事に着手し、来年2月のオープンを目指します。

次に、公共機能施設については、日本家屋を数多く手がけ、実績豊富な(株)高砂建設と、安全性が担保できるかを確認する構造計算の信頼性が高い(有)桑子建築設計事務所との共同企業体「蕨宿にぎわい交流拠点整備共同企業体」が整備に当たります。蕨ゆかりの品をはじめ、交流のある自治体や他の宿場町の特産品等を取り扱う物販施設のほか、トイレや駐車場、駐車場の2階部分には、市民の憩いの場となるような広場を設けます。広場のイメージとしては、中央部分に素足で気持ちよく遊べる人工芝を敷き、それを囲むようにウッドデッキ調の回廊やベンチを設け、暑さ対策として日よけ設備と、近隣住宅への配慮として、中山道側を除く3方向に防音壁を設置します。その他イベント会場に使用する想定で、電源や水道、照明等を整備してまいります。物販施設については、イメージ図のとおり、中山道の歴史的景観との調和が取れるよう、かつての旅籠や茶屋などをイメージした外観とします。

工事スケジュールについては、現在協議中ですが、今年度と来年度の2か年にわたる継続事業として進めてまいります。

なお、公共機能施設の管理運営のほか、子ども向け教室やマルシェの開催などのソフト事業を担っていただく事業者については、今後の選定となるので割愛させていただきます。

また、にぎわい交流拠点の施設配置イメージを資料中段に掲載しています。細かな部分は現在協議中であるため、参考程度に御覧いただければと思います。以上です。

【賴高市長】

それでは、ただいまの説明について、何かご質問・ご意見等ございますか。そのほか、事務局からは何かございますか。

【佐藤総務部次長】

次回の会議テーマと日程の提案でございますが、「令和8年度教育事業の概要（案）」を主な議題として、2月頃に開催することを提案させていただきますが、いかがでしょうか。

【賴高市長】

ただいま、事務局から次回会議の開催時期、議題等について提案がありましたが、いかがでしょうか。

【一同】

異議なし。

【賴高市長】

それでは、次回の開催については、「令和8年度教育事業の概要（案）」を主な議題として、2月に開催することといたします。

そのほか、事務局からは何かありますか。

【佐藤総務部次長】

最後に、本日の会議録につきましては、事務局で作成した後、皆さまにご確認をさせていただき、要領第6条の規定により公開をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

4 閉会

【阿部総務部長】

それでは、以上で本日の議事を終了いたします。ありがとうございました。